



# 広島中央トピックス

## 伝票電子化を試験 集出荷効率的に



広島中央地域本部は、デジタル技術を活用した営農販売事業の効率化に向けて、IT企業のセラクと共同で、出荷用伝票を電子化するシステムの試験運用を始めました。園芸品の出荷量が多い大和アグリセンターで新システムを導入。ペーパーレス化で、目視による集計・確認などが不要になり、集出荷作業の時間を大幅に短縮。その時間を営農指導に充て、品質向上や生産拡大の支援を強化して、生産者の所得向上と面接拡大につなげます。

新システムは、生産者の出荷箱と伝票の作成時間を半減させ、JAアグリセンターの営農指導員が1日当たり1〜4時間かけていた集荷作業を、4分の1に短縮できます。

生産者は、生産者番号、品目、規格、量目などの情報を書き込んだQRコード付きのラベルシールを発券し、出荷箱に貼ります。スマートフォンでQRコードを読み込むと自動的に集計され、出荷データを作成できます。

営農指導員は、QRコードをタブレット端末で読み込むだけで、検品と電子出荷伝票の作成が完了。JA全農ひろしまや市



▲タブレットでQRコードの情報を読み取る営農指導員

場には、タブレット端末の操作で即座に伝票を送信できます。

これまで、生産者は出荷の際に品目ごとの複写伝票を用意し、手書きする必要がありました。JAも、営農指導員が目視と手作業で検品・集計し出荷報告書を手書きで作っていました。集計ミスや記入漏れなどがあれば、修正のためさらに時間や労力がかかります。

出荷量の多い生産者は「伝票がデータで管理できれば、経理も効率化できる」と期待を寄せます。

営農販売課の橋本孟治係長は「販売業務のDX化で営農指導員の負担を減らし、圃場の巡回や生産者への栽培指導にかかる時間を充実させることで、個々のスキルアップを目指したい」と力を込めます。

## 獣害防止に監視カメラ JAが貸し出し



広島中央地域本部は野生動物による農作物の被害防止のため、組合員への動物監視カメラの貸し出しをしています。JA共済連広島の補助事業を活用して24台導入し、管内の各アグリセンターに2台ずつ配置。野生動物が活動する夜間も撮影して状況を確認し、効果的な対策につなげます。

カメラは設置工事などが不要で乾電池で長時間撮影でき、防じん・防水仕様で木や支柱にくくりつけて使用します。夜間の撮影にも対応し、温度の変化を感知することで動物を自動で撮影できます。

貸出期間は2月から1年間。カメラの貸し出しは無料で、乾電池や記録用のSDカードは用

意する必要があります。1年を通して撮影し、野生動物の動向や圃場への侵入経路を確認します。

管内は中山間地域で、鹿やイノシシなどの獣害が多く発生しています。豊栄町の有廣真司さんも山林に囲まれた圃場2haの管理に苦労しています。ワイヤーメッシュ柵と電気柵で防ぎ、箱わなで捕獲しています。が、毎年被害を受けています。

監視カメラは、獣害発生が想定される圃場に設置しました。有廣さんは「1年間撮影したデータを使って野生動物の生態や行動パターンを把握し、捕獲することで獣害を減らしたい」と話します。



▲監視カメラの映像を確認する有廣さん

# なるほどえ~のう! 営農情報

## 水稲

### 分けつ期の管理

#### ◆はじめに

6月に入り、ほとんどの圃場で田植えが終わったことと思えます。これからは梅雨の時期を迎え、気温と湿度が上昇し、稲の管理も注意が必要です。今月は分けつ期の管理と、この時期の病害についてご紹介します。

#### ◆分けつ期の水管理

分けつは、茎の根に近い節から新しく茎が発生して増えることです。稲には有効分けつ（穂になる茎）と無効分けつ（穂にならない茎）があり、安定した収量を確保

するには有効分けつを確保しなければなりません。

有効分けつ期は田植え後、約1カ月で、この時期は根が伸び、茎数が増えていきます。この時の水管理は水をためたままにせず、落水と入水を繰り返す間断灌漑を行ない、土壌中へ酸素の供給と根の発育を促進して過剰な分けつを抑えてください。落水は足跡に水が残る程度にします。

無効分けつが多いと生育に無駄が生じてしまい、十分な栄養が行き届かなくなります。収量や品質の低下、倒伏の原因となるので、目標茎数が確保できたら中干しを行ない、無効分けつを抑制しましょう。

#### ◆中干し

中干しは、田んぼの水を抜き、ヒビが入るまで乾かすことです。中干しによる効果は、次の通りです。  
①土中に酸素を供給し、根の活力を高める。  
②土中の有害物質（硫化水素、メタンガス）の排除。

③稲の肥料分である窒素の吸収を抑え、無効分けつの発生を抑制する。

④秋作業に向けた準備（地耐力確保、登熟後半の水管理）。  
中干しは、作付け品目ごとの目標茎数が確保できたら実施しましょう。中干しの期間は2週間程度が目安ですが、生育状況に応じて調整してください。

中干しを終了する時期は、出穂の1カ月前が目安です。稲が穂を作り始める時期（生殖生長期）に中干しを行なうと地上部分に生えている根を傷めることになり

ます。さらに高温期では品質低下の原因ともなります。出穂1カ月前（中干し終了後）になったら湛水状態（田に水を張った状態）と落水状態（水を落として干した状態）とを数日おきに繰り返す間断灌漑を行ない、適度に酸素を供給し、根の力を落とさないようにしましょう。また、強すぎる中干しは根の切断を招くなどの弊害がでるため注意してください。

#### ◆いもち病

いもち病は、苗、葉、穂などの各部位に症状が現れ、稲の全生育期間において発生する病気です。いもち病は、稲の水滴にいもち病菌が付着することで発生します。冷害、長雨、高温などの気象条件も大きく関係しており、特に梅雨時期は注意してください。

この時期は、葉いもち病が特に発生します。被害が大きいと収量に直接影響を及ぼすため、防除を行ないましょう。病害の発生前に防除を行なうのが理想です。症状が出てからでは効果が薄くなるので、なるべく早めに行なってください。



▲葉いもち病斑 (発生すると写真のような病斑が出ます) ※ルーラル電子書籍より引用

#### ◆薬剤防除

防除は水稲栽培ごよみを参考に行ないましょう。  
●「ブラシン粉剤DL」  
3〜4kg/10a  
●「ブラシンフロアブル」  
1000倍/10a

## 野菜

### 秋冬白ネギの栽培管理

秋冬白ネギは、露地夏秋ナスとの複合経営の推進と併せて広島中央地域本部で振興を強化している主要園芸品目の一つです。

秋冬白ネギは、農閑期である冬の所得確保が期待できる品目として、管内の農事組合法人を中心に急速に拡大しました。しかしここ数年、冬場の暖冬による販売単価の低迷などにより、やや生産拡大に歯止めがかかっていることも事実です。

しかしながら、広島中央地域本部では、過去より実施している広島北部地域本部の夏ネギとのスムーズなリレー出荷による長期的な売り場確保や、新興産地である三次地域本部、三原地域本部との連携を強化し、県内有数産地として再度、強力に生産振興を図っていきます。

特にコロナ禍以降、販売価格が不安定に推移している現状、契約の出荷等価格安定対策をより強化

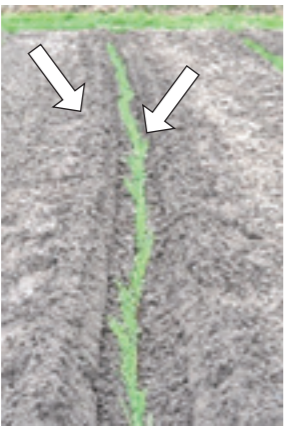
し、農業者所得の増大に向けた取り組みを強化するとともに、スケジュールメリットを前面に押し出した販売戦略策定に取り組みします。

#### ◆これからの栽培管理

管内の作型の中心は、「5月定植〜年内どり」が普及しています。

6月の主な栽培管理は、定植後の苗が倒れないよう「埋め戻し」により株元を安定させることと、病害虫及び雑草の対策が主な管理になります。

#### ◆埋め戻し後の理想的な姿



この時期の白ネギ苗はまだ柔らかく、一気に土をかけてしまったら、かたまりが大きいと傷が付いたり曲がってしまう原因になります。

圃場規模にもよりますが、初期の埋め戻しは鍬などで軽く戻すことと、土がかたまりにならないよう、降雨などで固まったら管理機などで通路部分を耕うんし、柔らかくしてから埋め戻すように心がけてください。

#### ◆この時期の病害虫と対策

●アザミウマ類  
高温・乾燥時に発生しやすくなります。同じユリ科のタマネギや園芸ハウスなどがある場合は注意が必要です。あらかじめ登録のある粒剤で対応します。

●ハモグリバエ類  
4〜10月の温暖な時期に発生します。葉の中を潜るように被害するため多発時には葉が真っ白に枯れたようになります。対策はアザミウマ類同様です。

●べと病  
梅雨時期特有の病害で、高温・多湿時に多発する傾向にあります。「ダコニール1000」などの防除薬剤を用いて対策しましょう。

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
				×	×						
			基肥 耕うん	溝切 定植	埋戻 除草	追肥・防除・除草・土寄せ 止め土					
このタイミングで粒剤や液剤の除草剤を散布し、対策を行ないます。											

★白ねぎ栽培カレンダー（抜粋）

▶ Information お知らせ

広島中央地域本部 産直市のご紹介

本誌4月号9、11ページでご紹介した電話番号が誤っておりました。こちらが正しい番号になります。

とれたて元気市  
となりの農家店

東広島市西条町寺家7957-1  
TEL 082-437-5831  
【営業時間】9:00~18:00



となりの農家  
高屋店

東広島市高屋町杵原1264-1  
TEL 082-439-1147  
【営業時間】9:00~18:00



となりの農家  
黒瀬店

東広島市黒瀬町南方829-1  
TEL 0823-83-2700  
【営業時間】9:00~17:00



アグリセンター 休日営業のお知らせ

4月8日(土)~10月15日(日)の期間、アグリセンターの休日営業を行なっておりますが、**6月・7月・8月は、土曜日のみ営業し、日曜日・祝祭日は休業します。**  
ご迷惑をお掛けしますが、ご理解の程よろしくお願いたします。  
【営業時間】8:30~17:00

中古農機展示会・  
農業機械展示会のお知らせ

中古農機展示会

【開催日】7月8日(土)

農業機械展示会

【開催日】7月21日(金)・22日(土)



会場はいずれも、JA全農ひろしま・JA西日本営農技術センター(東広島市河内町入野1631-13)

問 広島中央農機センター TEL082-434-3936

東広島市  
園芸センターより

農業者の土づくりを支援する補助事業をご紹介します

対象者

東広島市在住、同市内の農地で野菜や果樹、花きの園芸作物を出荷販売する農業者及び農業者団体

対象となる内容

- ・ほ場の土壌分析診断に要する経費に対して補助金を交付
- ・補助率 2/3以下、上限5万円
- ・窒素など一般的な主要肥料成分の分析と併せて、微量要素または微生物等の生物性の分析を行なうもの

その他

- ・土壌分析診断を依頼する前に、補助金交付申請が必要です。事前に園芸センターに相談してください。
- ・予算の範囲内での補助金交付となります。

申し込み・お問い合わせ

東広島市園芸センター  
TEL 082-433-4411



各種ローン利用の  
みなさまへ

合併により「利息計算書」の発送を終了することとしておりましたが、システム不具合により、引き続き「利息計算書」が発送されておりました。現在は、発送停止手続きが完了しております。今後は、「農業資金」「事業資金」のみ発送しますので、ご了承いただきますよう、お願いいたします。